

人権なら

2018年6月1日

第90号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

確かな人権感覚が必要に

田原本町企業内人権教育推進協議会が総会

田原本町企業内人権教育推進協議会が5月18日、田原本青垣生涯学習センターで2018年度総会を開催＝写真。会員企業の代表者が出席し、すべての議案を承認、新役員を選出した。会場の受付は、例年通り、町内にある県立高等養護学校1年生の3人が体験・参加活動の一環として協力した。



総会では、中村聡会長が「セクハラやパワハラ、女人禁制など、人権に関わる課題が今、身近な問題になっている。私たちにも、より確かな人権感覚が必要とされている。これらを確かめながら、人権社会への発展をめざしたい」とあいさつ。

来ひんとして出席した町長代理の住井康則・副町長、植田昌孝・町議会議員、森川一志・桜井ハローワーク所長、松本荘司・町人権教育推進協議会会長が紹介され、代表して住井副町長があいさつした。

中村聡さんの後任会長に谷野守弘さん

中村会長が議長を務め、議事を進行。議案「事業報告」「会計決算」を提案し、承認した。「監査報告」も承認した。「役員選考」では、2年の任期を迎えため、新役員を選出。新会長に谷野守弘さんが就任した。

議長並びに会長が退任あいさつ。新役員を代表して谷野会長が「人権教育の前進に向けて真剣に取り組んでいきたい」とあいさつ。議長に就いて、議事を

続行。「事業計画」「会計予算」を提案し、承認した。

藤田敬一さんが講演「いのち・生き合う」

記念講演は、藤田敬一さんが「いのち・生き合うーみなさんをお願いしたいこと」と題して話した＝写真。

藤田さんは、人権問題と付き合ってきた自分史を振り返りながら、「嫌な子だった」私がやさしく変わることができたこと。「正しいとされる答えを覚えてきた」私を振り返り、その間違いや誤りに気付いてきたこと。「間違い、失敗し、挫折したことがある」私を省みることができること。「自分に関係ないことには関心が向かない」私が、点字ブロック・障害者向け駐車場・女子トイレの行列・女性の参政権・女性と帝国大学など、その不合理な姿を気に掛けなければ気付かなかったこと、を話した。



そして、「いのち・生き合う姿」が日々の生活の中にあり、かけがえのない大切なものとしてあること。それは、身近なところから深く感じ、広く考えることとして、率直に「わからないことは知ったかぶりしない」ことや、「なぜ?」「どうして?」を大切にすること。「人間的な願い」とは何か、を考えることが大切だ、と語った。

最後に、そのためには、出会いとつながりを大切に、人間観・生き合い方観・生き方観など、自己を見つめ、自己を対象化しながら、不断の、普段からの努力と協力がなければならない、と述べ、話を閉めた。

<お知らせ> 県行政・労働保険代行組合が6月1日から21日まで、県中小企業者協会事務所で労働保険年度更新手続きを行う。午前9時半～午後4時。

6月16日に第18期総会

なら人権情報センター理事会が議案を協議

NPOなら人権情報センターは5月26日、三宅町あざさ苑で理事会を開いた。植村照子・理事長は「6月に総会を開く。当法人にとって多くの課題を抱えており、重要な総会となる。また役員の変更も行う。この理事会で多くのご意見をいただきたい」とあいさつした。



香川明英・専務理事が昨年11月の第17期総会を受けて、ことし2-3月に実施した「アンケート調査」の中間集約を説明。地域の現状や支局の現状・課題が明らかになったこと。また、解放同盟からNPOへの移行の過程で残してきた組織・活動をめぐる課題が今、浮き彫りになっていること、などを報告した。

総会后、映画「毎日がアルツハイマー2」上映

このあと、18期通常総会に向けて、「アンケート調査」の中間集約を基に課題を整理するとともに、昨年11月から事務局会議の定例化を通して議論してきたこと。とりわけ、4月の会議で、山下力・副理事長から受けた報告や提案を含め、すべての課題をテーブルの上に上げ、今年度末までには整理したいとの方向性を示した。

続いて、①役員人事について②部落解放運動史の編纂事業③6月総会の議案④第10回差別と人権研究集会⑤当面の日程、などを提案し、協議した。

第18期総会は6月16日午後1時半から、あざさ苑で開く。総会のあと、映画『毎日がアルツハイマー2』を上映する。映画は続編で、「認知症」の母親を抱える関口祐加・監督が母親との生活や葛藤と、イギリスの医療施設を訪ねて学んだ認知症ケアについて描く。希望と元気をもらえる映画だ。誘い合わせ、参加を。

三宅町「解放塾」が開校

中学生の学習支援を通して生きる力を育む

三宅町「解放塾」の開校式が5月17日、町人権センター(旧上但馬団地解放会館)であった=写真。

解放塾は町から当法人に委託されている「地域人権学習事業」の一環である「中学生の学習支援を通して生きるための力を育む教育」を目的に開設され、長年、続いている。

この日の開校式には、男子3人、女子2人の中学生5人が出席した。式下中学校の木寅校長も出席。「これまで長い間、解放塾の取り組みが続いてきた。この解放塾では、多くの先輩が学んできた。みんなも一緒に勉強し、学習だけでなく、いろんな事柄を学んでほしい」と語りかけた。



当法人の担当者3人や学習支援のトライの川本さん、式下中学校3人の先生たちが自己紹介。みんなで「一緒に頑張っていこう」と確認した。このあと、3グループに分かれ、それぞれ希望の学習を始めた。

「解放塾」は毎週木曜日に開催される。今後も、希望者がいれば、受け入れることにしている。

石元清英教授を招き学習会

奈良における部落解放運動史の編纂作業を進めている。これと並行して「部落史や差別をどう考えるのか」という勉強会を開くことにした。2、3カ月に1回のペースで実施する予定。第1回目は講師に石元清英・関西大学教授を招く。6月30日午後2時から4時半まで、三宅町・あざさ苑で行う。資料代500円。

5・15沖縄平和行進に参加

沖縄・韓国民衆連帯行動に全国から結集

5月10日 「沖縄・韓国民衆連帯」の友人や、平和行進に参加する韓国からの人々と那覇空港で合流。午後3時から、那覇市・ていりるで開催される「復帰46年 第41回5・15平和行進全国結団式」(写真)に。会場は、全国からの参加者で熱気が一杯となった。



海外ゲストとして登壇した韓国・平和行進団団長・グリーン・コリアのシン・スヨンさんは「南北首脳会談」を受け、「朝鮮半島の春が周辺にも広がることを期待する」と発言した。

11日 平和行進は名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前から出発。中北部・基地コースに参加し、約24キロ歩いた。途中、右翼の街宣車がヘイトスピーチを繰り返し、妨害。韓国から参加したフリースクールの子どもたちも元気に合流した=写真。



12日 午前中、辺野古テント前での集会参加と、グラスボートに乗船し、大浦湾を見て回った。埋め立て工事が進む護岸区域と、巨大な青珊瑚やたくさんの魚の群れに息を飲んだ。午後は「ぎのわんセミナーハウス」で「平和行進韓国参加団との報告交流会」=写真。



交流会は「米軍基地に反対する沖縄と韓国民衆が出会い、21年の歳月が流れ、今アジアに平和構築の対話が始まった」と呼びかけられた。沖縄・韓国民衆連帯の豊見山雅裕さんが司会。映画「辺野古ゲート前の人びと」の監督、藤本幸久・影山あさ子さんがあいさつ。最新の「辺野古の闘い」の映像を流した。沖

縄国際大学の佐藤学さんが「沖縄から考える朝鮮半島の平和」をテーマに基調報告。伊波洋一・参院議員が発言した。

韓国からの発言は、環境や基地被害問題に取り組むシン・スヨンさん(グリーン・コリア)が米軍基地反対運動の映像を交えて報告。続いて、済州島カンジョン村で海軍基地反対に取り組むコ・クオニル・済州島海軍基地対策委員長、米軍の「THAAD(高度防衛ミサイル)」配備と闘う星州(ソンジユ)のソン・ソヒ・サード星州対策委員、群山からムン・ソニさん、平澤平和センターからイム・ユンギョンさんが、それぞれ発言した。

米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会の大湾宗則さんは京都での活動を報告。沖縄からは、沖縄・韓国民衆連帯の沖本富貴子さんが星州・密陽(ミリヤン)・月城(ウォルソン)の訪問・交流を報告した。

そのあと、交流会。知花昌一さん・影山あさ子さんが三線を弾き、歌を披露=写真。参加者の発言などが続き、会場は大盛り上がりした。



13日 朝、宜野湾市役所前に集合。普天間基地包囲行動に。この日も右翼がヘイト街宣を繰り返し、行進を妨害。午後は、宜野湾海浜公園野外劇場での「復帰46年 5・15平和とくらしを守る県民大会」(写真)に合流した。

川口真由美、YASU、沖縄音響さんの元気溢れる音楽でオープニング。山城博治さんがあいさつ。連帯あいさつのあと、安次富浩さんが辺野古の闘いを報告。韓国から参加したフリースクールの子どもたちは踊りを披露した。



コ・クオニルさんは「世代を超えて闘い続けてきた沖縄の民衆に深い感謝と尊敬の念を表す。不幸なイデオロギー対立は終わらせ、民衆の意志を示さなければならない。東アジアの民衆に痛みを与え続ける米軍は、米国に追い返さなければならない」と訴えた。

改憲阻止に向け5・6行動

藤井雅彦・日本体育大学教授が講演

安法法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合・奈良が主催する「安倍改憲NO！ 憲法を生かす奈良県学習決起集会」が5月6日、県文化会館であった。350人が参加した。



集会は、同市民連合共同代表の溝川祐介さんと堀田みえこさんがあいさつ。この間の改憲への動きを述べ、「安倍政権の改憲を絶対に許してはならない」と力強く発言した。続いて、清水雅彦・日本体育大学教授(憲法学)が「安倍首相・自民党の九条改憲案の問題点」と題して講演した。

清水さんは、石川健治・東京大学教授(憲法学)の「立憲主義的な憲法の定義の中に理想はない。特定の理想を書き込まないのが理想の憲法だ」との言説を紹介。昨年5月3日の安倍メッセージに触れ、「憲法は

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

米朝会談が間もなく実現する。歴史的な出来事だ。南北の和解も図られ、朝鮮半島に平和が訪れるかも。だが、北朝鮮に対して圧力一辺倒の日本。核・ミサイルの危機を煽り、「国難」と称して解散・総選挙まで強行した。拉致問題の解決に向けても動く気配はない。今、不祥事続発で崖っぷちに立つ安倍政権。北朝鮮を仮想敵にし続ければ、政権への求心力に利用できる。脅威が薄れ、平和が進むと、自衛隊や軍備の増強、改憲へのシナリオが崩壊してしまう。急変する朝鮮情勢の「蚊帳の外」にいる日本。東北アジアの平和共同体の構築に向けたすう勢に一人乗り遅れてはいけない。

この国のかたち、理想の姿を示すもの」とする首相の無知な姿勢を批判した。

また、9条「加憲」論についても、今更、書き加える必要などない。2段階で改憲を目論んでいることは明らか。「加憲」で公明党を取り込み、「高等教育の無償化」で維新を取り込む算段が見え見え、と厳しく批判。しかし、条文(案)は、専門家も加わり、巧妙に検討されている、と警戒心の堅持を促した。

集会のあと、JR奈良駅までデモした。

「優生手術の問題」を論議

やまゆり園事件を考える会が集会テーマで

やまゆり園事件を考える会が5月7日、奈良市はぐくみセンターで集会を開いた。1月20日の「やまゆり園事件から考えるー地域で暮らしていくために、今、何が足りないか〈Part II〉」集会(写真)の振り返りと、次にどんな取り組みをするのか、を議論した。



振り返りでは、想定以上の人が参加した。当事者の多くの人が意見や質問を述べた。交通運賃や住宅問題をめぐって、精神の当事者が発言した。担当課の職員の発言も温度差があったが、良かった、などの意見が出た。事件から2年目の取り組みでは、旧優生保護法下での「強制不妊手術」に対して国賠訴訟も起きている「優生手術の問題」をメインテーマにしてはどうか、との提案があり、論議。次回会合で決めるとした。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人 なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833
E-mail:info@nponara.or.jp
http://www.nponara.or.jp/